



京都 **確定** 東京

フェブリス オッズ
片山の特注ヤマニン キングリー

検察裁判所

小沢裁判のその後 日取

1・2ページ



木嶋佳苗 法廷 名器、自慢

5ページ

東京地裁の17日の決定でも
有罪なのか 無罪になるのか

小沢一郎裁判重要な局面



この裁判の目的は 小沢抹殺

とすれば公正な判決など期待できない
が抹殺に失敗すれば小沢一郎の復権で
野田内閣、民主党、政界はどうなるのか

知裕衆院議員
(38)の供述調

書の証拠採用を見送った。土地購入費の4億円を報告書に記載しないことについて、石川が小沢に報告して了承を得たという調査も不採用である。

検察審査会は、今回却下された調査などを基に、政治資金収支報告書の虚偽記載に「小沢の共謀があったのではないかと強制起訴している。とすれば、この裁判は、証拠ゼロで開かれたも同然だ。無実の罪を着せられたデッチ上げ裁判となる。裁きを下す理由がないし、下すべきかどうかを判断する機会を設ける必要性もゼロ。まともな国であれば、世論は猛烈に反発するだろうし、裁判そのものが終わるところだ。

善文男裁判長
「違法不当で許容できない」「強力な圧力を掛けた」と特捜部の取り調べを批判しているのだ。むしろ罪に問われるべきは、調べを担当した田代政弘検事(45)の方である。

前代未聞の奇天烈な裁判である。犯罪の核心となる証拠は失われた。起訴の根拠はゼロに等しい。それでも裁判は続いている。21世紀の法治国家にあるまじき、前時代的な茶番劇。いったいこの国に正義はあるのだろうか。

小沢のことで「有罪か、無罪か」とワーワー騒ぐのがおかし。一刻も早の裁判で、裁判く田代検事を取り調べる所は17日、石川へきである。それが正義か。